

直営型の地域包括支援センター主任介護支援専門員の ネットワーク構築に関する認識

大沼 由香* 弘前医療福祉大学保健学部看護学科
寺田 富二子 弘前医療福祉大学短期大学部
小池 妙子 弘前医療福祉大学保健学部看護学科
中村 直樹 弘前医療福祉大学短期大学部

本研究の目的は、地域包括支援センターの主任介護支援専門員が継続的・包括的ケアマネジメント実践のためのネットワーク構築における専門職としての役割を、どのように理解しているかを明らかにすることである。対象は青森県内の直営型地域包括支援センター10カ所で、主任介護支援専門員の職名で配属されている職員10名に対し半構造化面接を行い、分析には修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた。調査期間は2010年10月～12月であった。主任介護支援専門員のネットワーク構築の認識は、【ケアマネジャー支援の遂行】【地域を支える専門職としての自覚】【三職種間の成熟した関係と協働】【ネットワーク構築に対する模索】の4つのカテゴリーで構成されていた。主任介護支援専門員は包括的・継続的ケアマネジメント実践のため【ケアマネジャー支援の遂行】をしながら【ネットワーク構築に対する模索】をしていた。ケアマネジメント実践を支えるものとしては【地域を支える専門職としての自覚】と【三職種間の成熟した関係と協働】が必要であると考えていた。

キーワード ⇒ 地域包括支援センター, 主任介護支援専門員, ネットワーク構築, 連携, 三職種